

令和4（2022）年第3回栃木県無人自動運転移動サービス推進協議会
議事概要

1. 開催日時 令和4（2022）年12月16日（金）10：00～12：00

2. 会議形式 オンラインによるWeb会議（県庁北別館204）

3. 出席者 委員8人、オブザーバー3人（うち代理1人）

4. 議 事

(1) 那須町における実証実験の実施結果について

資料1に基づき、那須町における実証実験の実施結果について説明し、質問やコメントをいただいた。

《委員からの主な意見等》

- ・ まずは安全に事故無く終えて喜ばしい。混合交通の難しさがあらためて認識できた。今後の実装を安全第一で進めていく上で参考になる実証であったと考える。【委員】

⇒ 今後も安全第一を意識し中山間地域以外の地域での検証も進めていきたい。【事務局】

- ・ 本町は少子高齢化が進んでおり、今回の実験箇所の黒田原駅周辺は日中はほとんど人が出歩いていないことから、実証実験当初は不安を感じていたが、乗車人数、乗車率ともに高く、実証実験期間中は地域の賑わいと町民の期待の大きさを感じた。那須町としても主要拠点間を結ぶ高齢者の足の確保、交通機関との接続は重要と考えており、自動運転はその大切な手段と考えている。今後も県等から情報を頂きながら町としても自動運転の導入に向けて研究を進めていきたい。【那須町】

⇒ 県としても実証実験で得られた知見を各市町に共有しながら今後の実証実験を進めていきたい。【事務局】

(2) 宇都宮市における実証実験の実施結果について

資料2に基づき、宇都宮市における実証実験の実施結果について説明し、質問やコメントをいただいた。

《委員からの主な意見等》

- ・ 多くの方に乗車いただき、認知の向上に寄与したと考える。今後の実証に繋がっていただきたい。【委員】

⇒ 西川田駅の乗降人員は一日あたり平均2,007人である。自動運転バスは多い日で一日400人程度利用いただいたことから、公共交通の利用促進

に寄与できたのではないかと考えている。今後の実証にあたってもご協力いただきたい。【事務局】

- ・ 国体の開催にあたり宇都宮市と多岐に渡る連携で非常によい結果を得られたと感じている。また、車いすの方の3名の方の意見は非常に重要と感じた。全国的にみても、これまで全国各地で行われた自動運転の実証実験において、ハンディキャップを持たれる方に意見を聞いた事例はあまり聞いたことがないので、今回国体において検証できたことは非常に意義があると思う。本取り組み全体でも継続してフィードバックできると良いと考えている。【委員】
⇒ 今回得られた意見に対してどのように対応していくか、難しい部分があるが、まずは課題の整理をしたい。【事務局】
- ・ 交通政策課としては電動キックボードと連携させていただいた。今後もイベント等で電動キックボードの周知活動を行っていく。今後も継続して県、他の市町と連携させていただきたい。【宇都宮市】
⇒ 今回の連携で利用者に多様な移動手段の提供をできたと考えている。今後も自動運転に限らず、公共交通の利便性向上のために十分連携して取り組んでいきたいので、よろしく願いしたい。【事務局】

(3) 足利市における実証実験の実施概要について

資料3に基づき、足利市における実証実験の実施概要について説明し、質問やコメントをいただいた。

《委員からの主な意見等》

- ・ 観光に力を入れている地域であることから東武鉄道としてもポスター掲示等の対応をぜひ協力させていただきたい。【委員】
⇒ 本実証実験においては、足利市を訪れる観光客に対して、より積極的にPRをしていきたいと考えているため、ぜひご協力いただきたい。【事務局】
⇒ 足利市駅には特急列車も停車することから、足利市からの帰りの電車との接続を考慮する等、ダイヤ設定に十分な配慮を行うと良いと考える。
【阪田会長】
- ・ 今回の実験箇所は、高崎支社の管轄エリアになるため、調整にあたっては事務局から高崎支社に連絡することでよいか。【委員】
⇒ 実験の協力にあたっては、栃木県から高崎支社に連絡を入れさせていただく。【事務局】
- ・ 足利市の中心市街地の課題として、JR足利駅と東武足利市駅の連携が昔から認識されている。駅から少し離れた観光施設との移動手段確保があまり図られてない課題に対して、一度に解決できるツールとして自動運転に期待している。鏝阿寺前から足利学校までの区間は幅員が狭く歩車共存の交通空間となるため、どのように自動運転車両が安全性を確保しつつ賑わい創出等に寄

与するかを重視したいと考えている。県と協力しながら実証実験を行い、実用化に向けて考えていきたい。【足利市】

⇒ 歩者共存空間における走行は那須町の実験結果でも課題として挙げたところである。これまでのノウハウも活用しながら実験を行いたい。【事務局】

(4) その他

各委員より全体を通じて質問やコメントをいただいた。

《委員からの主な意見等》

- ・ 全体を通して順調に進んでおり、成果が出ていると感じているが、あえて3点コメントしたい。1点目は、今回報告のあった実証実験の検証結果において、ビジネスモデルの検討がやや表面的と感じている。利用者に運賃を聞くだけがビジネスモデルではなく、実際の公共交通としての運賃と支払意思額の差分の穴埋めの検討をしていく必要がある。また、オペレーションを日々回していく上で、車両の運用方法等で精緻な検討が必要である。これまで数か所実験を進めてきているなかで、今後はそのような検討を進めていくべきではないかと感じている。

2点目は、各地域で周到に準備をしており、どこも問題なく走れている結果が得られている。一方、実証実験を行った全ての箇所において、自動走行の実装は現実的ではなく、本当に実装できる箇所は限られてくると考える。世界的にみても自動運転の実装のフェーズは、足踏みをしているように感じられ、実装できるタイミングは少しずつ先延ばしになっている背景もある。本プロジェクトは、全国でも注目度が上がってきているため、全部できるという見せ方よりも、実装できる地域を絞り込んだ短期的・長期的なロードマップを示していくことは重要だと考えている。

3点目は、2点目とやや関係するが、これまで短期的な実証の積み重ねの議論が中心であったが、特定のプロジェクトの中で中長期にどう実装を進めていくかは検討が必要であると考え。【委員】

⇒ ビジネスモデルについては、運賃だけでは賄えないものと考えており、自動運転だけでなく、公共交通そのものの問題だと考える。多方面から検討を進めていきたい。

また、各地域で問題なく走れた報告をしているが、実際は手動介入を多々入れて運行しているため、無人運行に近づけていくところがどこなのか、今後の実証も踏まえて検討していきたい。

最後に、中・長期的な議論は、市町ともよく検討し一緒に勉強しながら進めていきたい。【事務局】

⇒ 無人運行となると様々なハードルがあがるが、実装に向けての実証運行として検討ができればよいと考える。また、今回の結果にもあったが、電

気自動車の場合は、充電箇所の問題もあるため、実装にあたっては考えていく必要がある。【阪田会長】

- ・ 令和4年度では最後の協議会になる。次回の協議会は、来年5月頃の開催を予定している。足利市の実証実験結果、令和5年度の実証実験の実施概要を議事として予定している。【事務局】

以上